

大容量送水管は、水源の 4 分の 3 を阪神水道企業団からの受水に頼っている神戸市において、当初計画していた山岳トンネル方式を見直し、危険分散も考慮し、新たに市街地を通る耐震性の高い送水幹線を整備するものです。

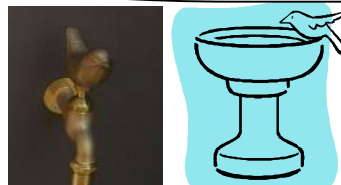
現在は、芦屋市境～布引立坑間が完成しており、また、先日、奥平野立坑～布引立坑間のトンネルが完成しました。

写真は、シールドマシンが最後に到達して先端部が顔を出したところです。これから2年かけて

写真は、シールドマシンが最後に到達して先端部が顔を出したところです。これから2年かけて中に送水管を設置するなどの工事が行われます。

須磨、垂水、西区など神戸西部の地域では、阪水の水は、現在、六甲山を通る送水管トンネルを通して水が運ばれています。大容量送水管は、震災時に水道設備が大きく破損し、水の供給ができなかった経験から計画されました。バックアップとしての機能のみでなく、大きな災害が発生した場合にも、交通渋滞の影響を受けずに、大容量の管内に貯留された水道水を供給できるメリットがあり、並行して、応急給水拠点は、「いつでも蛇口」として整備が進められています。

六甲山の水道送水管トンネルは、バックアップとなる大容量送水管の送水管工事が完成次第、更新工事の計画に入る予定になっています。



～大道ポンプ場～
淀川の下流で取水が行わ
れています。

～尼崎浄水場～
オゾンによる高度浄水処理
が実施されています。



六甲山の送水管トンネル～
大 $\phi 2.5\text{m}$
小 $\phi 1.8\text{m}$

